

# モニタリングサイト 1000 里地調査

## 鳥類調査データ(2005～2012)の概要と利用上の注意点

(2022年7月版)

### 目次

I.	利用上の注意点 .....	1
II.	データセットの概要 .....	1
III.	データの種類とその概要 .....	2
IV.	各データの構造・変数についての説明 .....	3
	1. DataSite_bird.xlsx について .....	3
	2. DataCondition.csv について .....	3
	3. DataCensus.csv について .....	4
V.	参考文献等 .....	6

## I. 利用上の注意点

- ・本文書は、今回一般に公開するモニタリングサイト 1000 里地調査（以下、「里地調査」とする）で得られた鳥類のデータの概要と利用上の注意に関する説明書です。データを利用する際は、必ず「本文書」及び「データの利用方法（<https://www.biodic.go.jp/copyright/index.html>）をお読みください。これらに書かれている注意点に同意できない場合は、データを利用することはできません。
- ・モニタリングサイト 1000 については、モニタリングサイト 1000 ウェブサイト (<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>) をご参照ください。
- ・データを利用する際は、論文、プレゼンテーション等にデータの出典を下記の例のように明示してください。  
＜データ出典の明示例＞  
「xx のデータについては、環境省・モニタリングサイト 1000 プロジェクトによる (SAT02.zip, <https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index.html>, よりダウンロード) 。」  
“Data for XXX was provided by the Ministry of the Environment Monitoring Sites 1000 Project (SAT02.zip, downloaded from <https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index.html>)”.
- ・ウェブサイトで公開されていないデータをご利用になりたい場合は、環境省自然環境局生物多様性センターまでお問合せください。
- ・データは、予告なく随時、変更・修正されます。変更した場合は、ファイルのバージョン番号が変わります。
- ・本文書は、予告なく変更する場合があります。

## II. データセットの概要

- ・本データは、里地調査で実施している「鳥類調査」によって得られたデータです。
- ・全国約 200 ヶ所の調査サイトのうち、鳥類調査を実施した全 96 サイトで得られたデータです。この中にはおおむね第 1 期（2005 年～）から調査を開始しているコアサイトと第 2 期（2008～2012 年）に調査を開始した一般サイトが含まれており、調査の開始年や調査を実施できた年はサイトによって異なります。詳細は  
データ：[DataSite\\_bird.xlsx](#)  
をご覧ください。
- ・調査手法の概要：各サイトにおいて、繁殖期（5～6 月頃）と越冬期（12～2 月頃）に調査ルートを一定の速度で歩き、半径 50m 以内で確認された鳥類の種名・個体数を記録しています。各期間に計 6 回の調査を行います。調査ルートは景観タイプに基づいていくつかの区間に区切り、区間ごとに鳥類を記録します。調査手法の詳細については調査マニュアルをご参照ください。

- ・調査マニュアル：

[https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/2Bird\\_Manual\(ver3.1\)\\_s.pdf](https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/2Bird_Manual(ver3.1)_s.pdf)

- ・各サイトの位置情報については  
データ：*DataSite\_bird.xlsx*  
をご覧ください。緯度・経度については、基本的には小数点以下第4位までの精度で記録していますが、自然環境保全上の理由により詳細な位置情報を公開できないサイトについては小数点以下第1位までの公開にしています。
- ・調査ルートの詳細な位置情報は今回公開する本データセットには収録されていません。調査ルートは基本的には永続的に位置が固定されていますが、現地での状況により途中で変更される場合もあります。ただし調査ルートの長さ自体が大きく変わることはほとんどありません。ルートの位置が変更された場合は過去とは異なる区間名が使用されます。
- ・種の保存法の対象となる国内希少野生動植物種（緊急指定種を含む）、環境省の最新版レッドリストで絶滅危惧種（CR、EN、VU）として掲載されている種、および自然保全上の理由から各サイトより公開の制限の希望があった在来種については本データに収録されていません。詳細については「VI. データに収録されていない希少種」をご覧ください。また、各サイトで在来鳥類の一部の種について公開制限が設けられているかどうかについてはデータ *DataSite\_bird.xlsx* をご参照ください。

### III. データの種類とその概要

データは以下の3種類の表・データベースから構成されます。

#### ①DataSite\_bird.xlsx

各サイトの名前、位置情報、現地調査主体の名称、調査実施期間、データの公開制限の有無等を表形式で記したデータです。

#### ②DataCondition.csv

各サイトの調査回ごとの調査条件（調査日、調査反復回数等）についてのデータです。過去の全サイト・全期間のデータがひとつのデータベース形式として収録されています。

#### ③DataCensus.csv

調査によって確認された種の種名・個体数等のデータです。過去の全サイト・全期間のデータがひとつのデータベース形式として収録されています。

#### ④SAT02.zip

上記の3ファイルを1つにまとめてzip形式で圧縮したものです。

## IV. 各データの構造・変数についての説明

### 1. DataSite bird.xlsx について

- ・各調査サイトの種別、名称、位置情報、調査を担う現地調査主体の名称（調査グループ名）、各年の反復調査回数、データの公開制限の状況を表で示したものです。
- ・各サイトの緯度経度の詳細情報が「非公開」となっているサイトは、それぞれのサイトの自然保護にかかる理由によって位置情報を公開していない場所です。
- ・自然保護上の理由により、絶滅危惧種以外の種についても、調査サイトによっては一部もしくはすべての種のデータを本データに収録していません。「在来鳥類のデータの公開状況」は、それぞれのサイトで絶滅危惧種以外の在来種をどの程公開しているかを示しています。

### 2. DataCondition.csv について

#### ■調査 ID

各サイトで実施された調査ごとに割り振られている ID です。

#### ■サイト ID

里地調査の各調査サイトに割り振られた ID です。調査地の詳細については上記 DataSite.xlsx をご参照ください。

#### ■調査年

#### ■調査月

#### ■調査日

調査が実施された年月日を表します。

#### ■季節

調査が実施された季節です。

繁殖期：沖縄では 4～5 月、本州・四国・九州では 5 月中旬～6 月下旬、北海道では 6 月上旬～7 月上旬に、いずれも日の出頃～午前 8 時頃までに実施

越冬期：12 月中旬～2 月中旬の午前中に実施

その他：上記以外の期間に調査が実施された場合

#### ■反復 No.

各期間 6 回の調査回数のうち、何回目の調査であるかを表します。

6 回の調査の実施方法はほとんどの場合以下の方法で行われます。

- ・ 1日に3回（一往復半）の調査を実施し、2週間ほどあけて再び1日（3回）実施
- ・ 1日に2回（一往復）の調査を、10日～2週間ほどの間隔をあけて計3日実施

■調査人数

調査に参加した人数です。

■天候

調査日の天候です。

### 3. DataCensus.csv について

■データ ID

各データレコードにわりふられた固有 ID です。

■調査 ID

そのデータレコードが属する調査回にわりふられた固有 ID です。上述の「DataCondition.csv」内の調査 ID に対応しています。

■サイト ID

■調査年

■調査月

■季節

■反復 No

調査 ID に対応した調査が実施された年月、季節、反復 No が入力されています。内容についても前出と同じです。

■区間名

それぞれのデータが記録された区間の名です。

■種名

確認された鳥類の種名です。調査票原票がそのままデータ化されているサイトもあるため、現地調査にて同一区間内で同じ種が繰り返し出現して記録された場合にも個別のデータとして登録されている場合があります。

■同定の確度

「？」や「sp.」が入力されている場合は同定の確度が低いデータであることを示します。

■個体数

確認された鳥類の個体数です。

■ 土

調査員が、記録した個体数に自信がない場合に適宜「+」「-」「±」のいずれかの記号を記入しています。個体数が不確かな場合、基本的には個体数には最低個体数が記入され、「+」の記号が付されています。

■ 同定\_視認

■ 同定\_さえざり

■ 同定\_地鳴き

その種がどのように同定されたかが入力されています。

■ 成鳥/幼鳥

■ 繁殖行動

その種が成鳥か幼鳥か、繁殖行動をとっていたかが、現地調査で確認可能な範囲で記録されています。

■ 範囲外

規定の調査記録範囲（半径 50m）より外側で記録された場合に「○」と入力されています。

■ 時間外

調査の開始前後や休憩時などに記録された場合に「○」と入力されています。

## V. データに収録されていない希少種

以下の表 1 の種のデータについては、自然保護上の理由によりすべてのサイトについて本データセットには収録されていません。また、表 2 の種についても、個々の調査サイトの自然保護上の理由により、データを収録していない調査サイトがあります。

表 1：全サイトについてデータを非公開とした種の一覧

絶滅危惧種	その他の種
・種の保存法の国内希少野生動植物種 ・最新版レッドリストの CR、EN、VU の全種	ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、ウズラ、アカヤマドリ、コシジロヤマドリ、アカショウビン、サンコウチョウ

表 2：一部の調査サイトでデータが非公開となっている種の一覧

アオアシシギ	オオルリ	コガラ	チュウサキ	ホウロクシギ
アオケラ	オグロシギ	コクマルガラス	チュウジシギ	ホオアカ
アオバスク	オシドリ	コサメビタキ	チュウシャクシギ	ホトキス
アオハト	オジロウネン	ゴジュウカラ	チュウヒ	ミサゴ
アカアシシギ	オハシギ	コチドリ	チョウゲンボウ	ミゾゴイ
アカケラ	カッコウ	コチョウゲンボウ	ツクシガモ	ミソサザイ
アカショウビン	カワウ	コノハスク	ツツドリ	ミヤマガラス
アカモス	カワガラス	コミスク	ツバメチドリ	ミユビシギ
アリスイ	カワセミ	コルリ	ツミ	ムナグロ
イカルチドリ	カンムリカイツブリ	ササゴイ	ツリスガラ	メダイチドリ
イソシギ	キアシシギ	サシバ	ツルシギ	ヤブサメ
ウスラ	キビタキ	サルハマシギ	トウネン	ヤマシギ
ウスラシギ	キョウジョシギ	サンコウチョウ	トモエガモ	ヤマセミ
ウミウ	キリアイ	サンショウクイ	トラツグミ	ヤマトリ
エリマキシギ	クイナ	シロチドリ	トラフスク	ヨシゴイ
オオアカケラ	クサシギ	スグロカモメ	ニューナイスズメ	ヨタカ
オオコノハスク	クマケラ	セッカ	ノスリ	ルリビタキ
オオジシギ	クマタカ	センダイムシクイ	ハイタカ	その他の猛禽 類すべて
オオジュリン	クロサギ	ソリハシギ	ハチクマ	
オオソリハシギ	クロジ	ダイシャクシギ	ハマシギ	
オオタカ	クロツグミ	ダイゼン	ハヤブサ	最新の大阪府 RDB 掲載種す べて
オオハン	ケリ	タカブシギ	ヒクイナ	
オオマシコ	コアオアシシギ	タケリ	ヒバリシギ	
オオメダイチドリ	コアシサシ	タシギ	フクロウ	
オオヨシキリ	コオハシギ	タマシギ	ヘラシギ	

## VI. 参考文献等

モニタリングサイト 1000 里地調査 鳥類調査マニュアル

[https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/2Bird\\_Manual\(ver3.1\)\\_s.pdf](https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/2Bird_Manual(ver3.1)_s.pdf)

モニタリングサイト 1000 ウェブサイト

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>

モニタリングサイト 1000 里地調査ウェブサイト

<https://www.nacsj.or.jp/activities/guardians/moni1000/>

作成 2022 年 7 月

お問い合わせ先

公益財団法人 日本自然保護協会 モニ 1000 里地調査事務局

担当：高川晋一・後藤なな・福田真由子

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

Tel:03-3553-4104 Fax:03-3553-0139

E-mail:moni1000satochi@nacsj.or.jp

URL : <https://www.nacsj.or.jp/>

環境省自然環境局生物多様性センター

担当：保全科

〒403-0005

山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

Tel:0555-72-6033 Fax:0555-72-6035

E-mail:mot@biodic.go.jp

URL : <https://www.biodic.go.jp/>